天守曲輪北側部分の土系舗装が完了しました

平成23年度の史跡津山城跡整備事業のひとつとして、天守曲輪の北側部分の土系舗装を行いました。

今回舗装を行ったことにより、天守台周辺は、東半を除く約4分の3の舗装及び平面表示等が完了しました。天守曲輪については、今後も、史跡津山城跡整備事業の中で計画的に整備を進めていきたいと考えています。

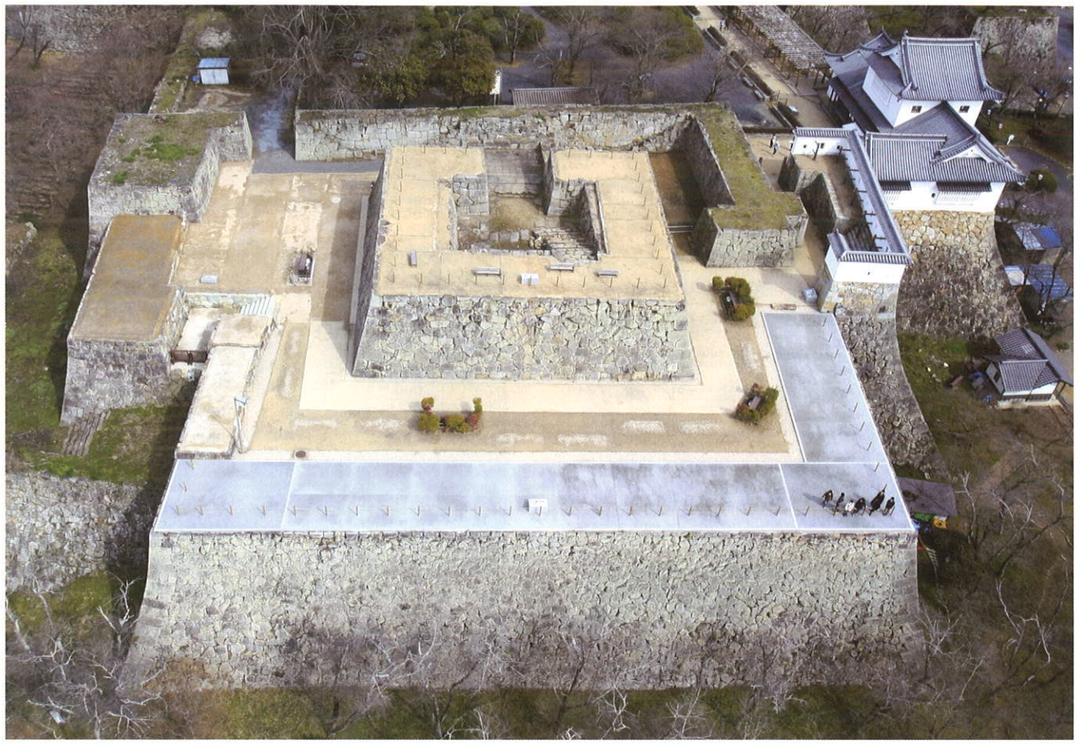

写真8　土系舗装が完了した天守曲輪北側部分（西上空から）

総合案内板・説明板を設置しました

「史跡津山城跡整備事業」、及び都市計画課の所管事業である「都市再生整備事業」のひとつとして、城内に総合案内板、説明板が設置されました。

総合案内板が設置されたのは、表中門前、本丸、搦手の裏門近くの計3箇所です。案内板には、城内の地図や案内表示だけでなく、城内を散策するためのお勧めコースなども表示されています。

写真9　表中門跡前に設置された総合案内板

説明板は、天守台、多門櫓、表鉄門、裏鉄門の4箇所に新たに設置しました。各箇所についての説明、発掘調査時の写真や古絵図などが掲載されています。

今回設置した総合案内板及び説明板は、津山城の絵図や古写真なども可能な限り掲載されています。来園者の方に津山城についての理解をより一層深めていただきたいと考えています。

津山城だより No.16 2012年3月 津山市教育委員会 文化課

発行年月日　平成24年3月31日
編集・発行　津山市教育委員会
文化課
〒708-0824 岡山県津山市沼600-1
ＴＥＬ　(0868) 24 － 8413
印　　刷　廣陽本社

津山城だより TSUYAMAJODAYORI No.16 2012年3月 津山市教育委員会 文化課

表中門の発掘調査を行ないました

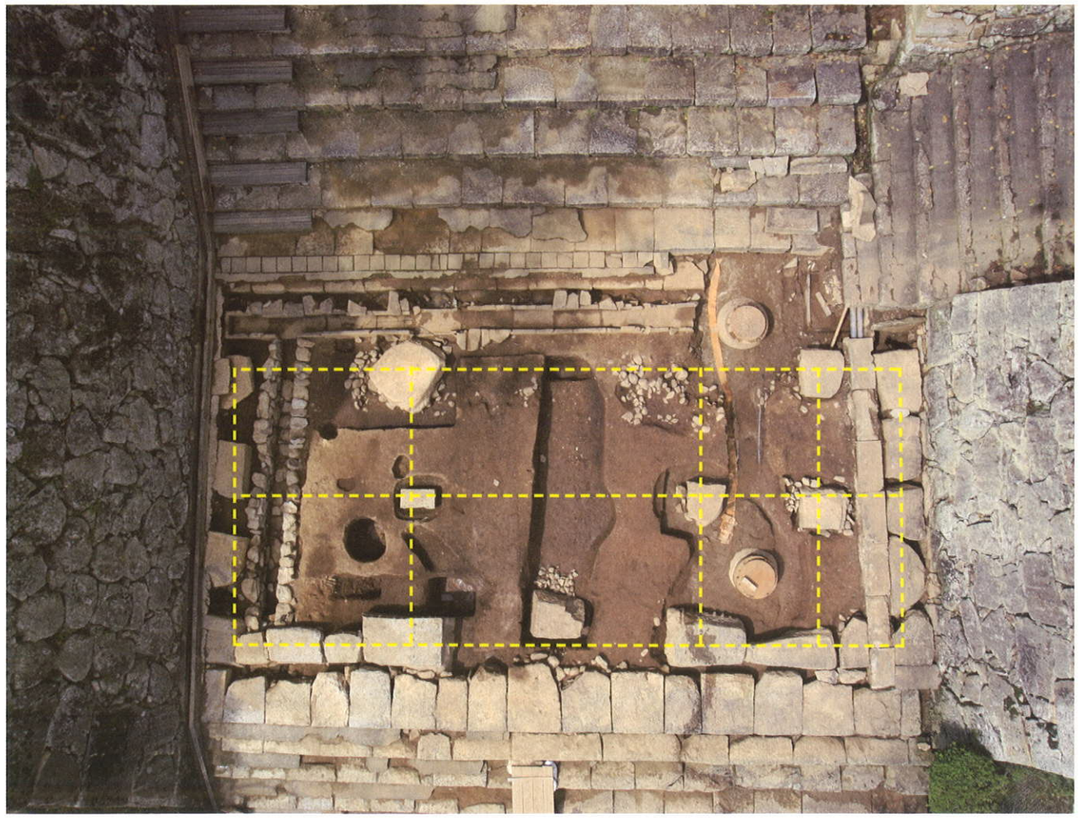

写真1　表中門発掘調査の全景（上が北）　黄色点線は門の礎石

津山城の表中門は、1階部分が城門、2階部分を櫓とする、いわゆる櫓門で、城内にある門の中で最も規模が大きいものです。正面は南向きで、三の丸からこの門を潜って石段を登り西に折れ、四脚門を経て二の丸に至ります。

平成23年度は、城内で最大の門である表中門跡の規模や構造を確認すること、及び昨年度から実施している二の丸東側石垣の上面及び基礎の状況を確認すること、の2点を目的として発掘調査を実施しました。

表中門跡の調査では、門の礎石など、遺構が良好に残っていることが分かりました。

また、整備工事では、天守曲輪北側の土系舗装が完了し、より天守曲輪周辺が歩きやすくなりました。

さらに、今年度は城内に総合案内板、及び説明板が新たに設置されました。

平成23年度のこれらの事業について、次ページ以降で詳しく紹介していきます。

東側法面石垣の発掘調査を行いました

調査の概要

①門の礎石と構造

調査の結果、東西方向に３列×南北方向５列の礎石がみつかりました（表紙写真１）。南北方向５列のうち、１・５列目の礎石列は門の両袖石垣に接して検出され、１列目（東側）は５石、５列目（西側）は４石あります。これ以外の礎石列は３石みられますが、３列目は２石しかなく、１石はなくなっていました。門全体の規模は、東西約 14 m、南北約６mです。礎石は、大きいもので平面 160 × 110 ㎝、深さ 50 ㎝のものがあり、これまで発掘調査を行ってきた城門の礎石の中では最大です。

礎石の配置から、東側にくぐり戸があったと推測されます。門の西側部分では、トイレの遺構と考えられる穴がみつかったことから、この位置に番所があったことが分かりました。門に番所がとりつく例は、裏鉄門の調査でもみられます。

②排水溝と木製枡

また、表中門の排水構造を推測できる遺構として、調査区北東隅に木製の枡、北側に東西方向の豊島石製Ｕ字溝、西側に南北方向の石積みの溝がみつかりました。

北東隅の木製枡は底板のうえに側板を乗せ、それを釘で固定しています（写真２）。側板は１段のみ遺存していますが、釘の状況から、本来はその上にもう１段あったと推測されます。枡の規模は東西 1.4 m、南北 1.2 mです。

豊島石製Ｕ字溝は、東端の一部を欠いていますが概ね良好に遺存していました（写真３）。豊島石の上端には切り込みが施されています。礎石との位置関係や、蓋がみられないことなどから、このＵ字溝は、排水と雨落溝の両方の機能を兼ねていたと考えられます。このＵ字溝の北側からは、新たに雁木（石段）の一段目がみつかりました。

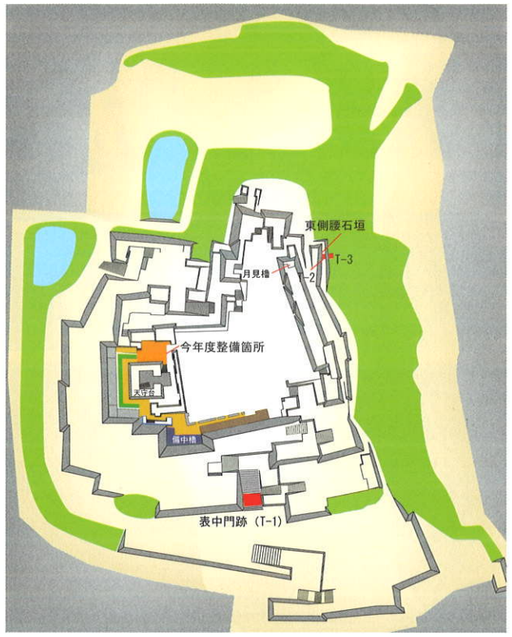

図１　平成 23 年度発掘調査、整備工事位置

西側の石積みの溝は、Ｕ字溝の西端から一段下がったところに設置されていました（写真３、４）。溝は、河原石を２段～３段に積み、底面には平らな河原石を並べています。溝の内部からは釘が出土していることから、中に木樋があった可能性があります。埋土中からは鯱（しゃち）瓦の一部が出土しました。さらに、門の南側、雁木の下からは、現在使用されている排水管に沿って石列がみつかりました。

これらの遺構から、表中門に流れた水は、北東隅の枡に溜まり、そこから豊島石のＵ字溝を伝って西側の石積みの溝に流れ、石段の下を通って排水されるものと推測されます。

その他、一部で地山の岩盤が確認されました。地山は門の中央に向かって大きく下がっていたことから、表中門の築かれた部分が谷地形であり、そこに盛土を行って整地をしていることが分かりました。

また、門扉の中央部分で礎石と同様の大きさの石がみつかりました。本来このような石は不必要なのですが、半の作事方の日記である『勘定奉行日記』の記事から、扉付近の沈み込みを防止するための石と考えられます。

まとめ

表中門跡の発掘調査では、門の礎石配置や、排水の構造を確認することができました。礎石は、史跡津山城跡整備事業の中で、これまで大手側と搦手側の門跡の発掘調査を行ってきましたが、表中門の礎石は、城内にある門の礎石の中でも最大規模のものを使用していたことが分かりました。また、排水についても、木製枡から豊島石製のＵ字溝と石積みの溝を通って下方に流す仕組みであることが今回の調査によって確認されました。

写真２　木製の枡（南西から）

写真３　豊島石製Ｕ字溝（手前）と石積み溝（北から）

写真４　豊島石製Ｕ字溝と石積み溝の接続部分（南から）

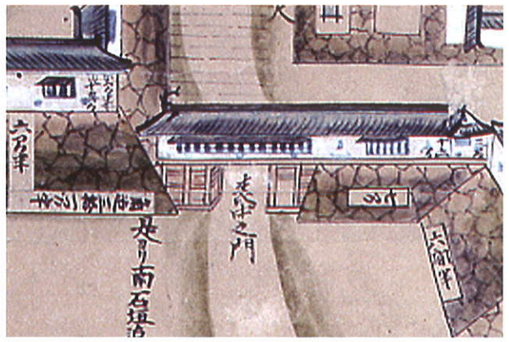

写真５　津山絵図に描かれた表中門

二の丸東側石垣の発掘調査について

昨年度に引き続き、月見櫓東側の腰石垣の発掘調査を行いました。この腰石垣は２段に築かれており、今回の調査では２段目の石垣の上面（トレンチ２）と基礎部分（トレンチ３）の調査を実施しました。

トレンチ２（写真６）

下段の腰石垣上面に設定したトレンチです。表土の直下から裏込めの栗石が検出されたことから、上段石垣と下段石垣の間はすべて栗石で充填されていたことが分かりました。

トレンチ３（写真７）

下段石垣の基礎部分に設定したトレンチです。現在の地表面から約 2.5 m下がったところで最下段の石垣が確認されました。基礎石垣は地山の上に直接積まれており、前面には、河原石と土が互層に積まれていました。これは、地山を掘り込んで河原石等を敷く「掘り込み地業」であると考えられます。地山の掘り込み部分は東側の調査区外にあると推測されます。昨年度の上段石垣基礎部分の調査においても、同様の「掘り込み地業」が確認されています。

写真６　トレンチ２栗石検出状況（左が北）

写真７　トレンチ３石垣基礎部分検出状況（右が北）